

# 社会のしくみのはざまでは私たちはどう生きるのか ～子どもと家族に寄り添って～

不登校やいじめや虐待は増え続け、貧困やケア問題等は社会全体に蔓延し、いずれも個々の責任と見なされる風潮があります。今回の公開講座では、社会のしくみ(課題)が原因で、人々の「生きづらさ」が生み出されているのではないかとこの視点から、児童と家族の抱える「生きづらさ」に焦点を絞り、基調講演、パネルディスカッションで皆さんと考える機会を持ちたいと考えています。

今回講師を務めていただく村本邦子先生は、長く女性問題に関わり、DV、虐待など女性や児童の臨床心理的支援を行ってこられました。先生のお話と子どもと家族に関わっている2人のパネリストとのディスカッションを踏まえて、今回のテーマである「社会のしくみのはざまでは、私たちはどう生きるのか」について共に考えたいと思っています。

2025 **12.14** 日

参加無料

定員 70 名

事前申込  
(先着順)**13:35・16:45** 開場 13:20京都市子育て総合センター  
**こどもみらい館** 第1研修室

## ■ 第1部 基調講演

立命館大学大学院 人間科学研究科 教授  
人間科学研究所所長

むらもと くにこ  
**村本 邦子** 先生

## ■ 第2部 パネルディスカッション

〈パネリスト〉

たかた えつこ  
**高田 悦子** 氏

特定非営利活動法人  
働きたいおんなたちのネットワーク理事長

あべ そら  
**阿部 天** 氏

迦陵園(ケアワーカー、里親支援専門相談員)  
NPO フラット共同代表



○地下鉄烏丸線「丸太町駅」下車、徒歩5分 ○市バス「烏丸丸太町」下車、徒歩5分



### 〈村本 邦子先生 プロフィール〉

精神科カウンセラーを経て、1990年、大阪に女性ライフサイクル研究所設立(2014年まで同所長、現在は顧問)。女性問題、虐待、性暴力、DVなどをテーマに臨床、研究、社会活動を展開。2001年より立命館大学大学院教授として教育にも携わる。2002年、特定非営利法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク設立(現在まで代表理事)。現在は、個人のトラウマから、学校や組織、地域などコミュニティのトラウマ、災害や戦争など歴史のトラウマ、および土地に根差したレジリエンスに関心を広げている。著書:『暴力被害と女性一理解、脱出、回復』(昭和堂、2001)、『援助者のための女性学入門』(三学出版、2002)、『周辺からの記憶ー 3.11 の証人となった十年』(国書刊行会、2021)、『婦人相談員物語ーその証言から女たちの歴史(herstory)を紡ぐ』(国書刊行会、2024)他多数。

参加申込

申込  
締切**12.3** 水(1) Google フォーム(右のQRコードをご使用ください。) <https://forms.gle/BRa27FEeJPrKC9Ei8>

(2) FAX (以下を明記の上、京都社会福祉士会事務局までお申込みください。)

① 講座名「公開講座 12/14」 ② 氏名 ③ 京都社会福祉士会(会員番号)/一般/学生  
④ 連絡先(電話番号及びE-mailアドレス)

【お問合せ】 一般社団法人 京都社会福祉士会 TEL 075-585-5430 (平日10:00-17:00) FAX:075-585-5431

○受付完了のご返信はしておりませんので、直接会場にお越しください。お申込み多数につき定員に達した場合のみ、ご連絡いたします。

